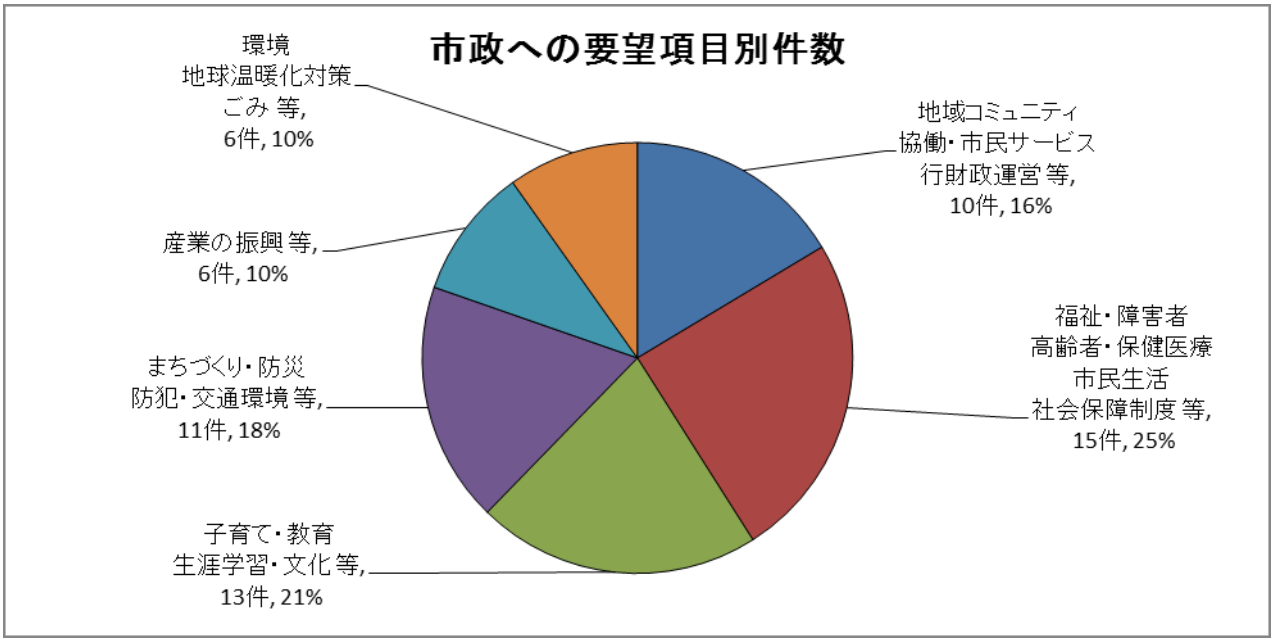
令和元年度（2019 年度）「市長と語る」の提案等取り組み状況

開催実績　　テーマ:「みんなで支え合い、安心して暮らせる地域をつくるために」

開　催　日	会場	延べ参加者数（人）	発言者数（人）	発言項目数（件）
５月 25 日	八王子駅南口総合事務所	105	8	8
６月１日	元八王子市民センター	76	7	7
６月 22 日	由木東市民センター	55	6	7
６月 29 日	由井市民センター	61	7	13



次ページから、令和元年度（2019 年度）の「市長と語る」でいただいたご意見・ご提案とその後の取り組み状況の一例をご紹介します。

令和元年度（2019 年度）の「市長と語る」でいただいたご意見・ご提案とその後の取り組み状況について

＜意見＞　**「支え合いの輪を広げる為」について**

市民同士の支え合いを深める施策の一つとして、家庭にある食品を寄贈していただき、食品に困る方々に手渡すフードバンクを応援してほしい。

食品の寄贈箱を市役所や支所に設置し、食に困る方々を支える姿勢を積極的に示せば、市民の生活意識が変わり、みんなで支え合い、安心して暮らすことのできる地域づくりに寄与することになると思う。

（森山　由実　様）

≪市長発言（当日）≫

市では、子ども食堂やフードバンクなどの団体で構成されたネットワーク会議を定期的に開催し、情報共有や意見交換などを行い、ホームページや広報等で子ども食堂やフードバンクなどの活動を発信し、市民の理解を深める支援を行っている。

一方、市職員の食品ロス削減、あるいは生活困窮者対策についての意識を高めるため、家庭では食べ切れない贈答品等の食品を持ち寄る仕組みづくりを進めている。

引き続き、フードバンク団体と生活にお困りの方をつなぐ橋渡し役を担い、フードバンク活動を市民の皆さんに周知するなど、市民主体の活動を応援していく。

【その後の対応】

フードバンク活動について、都の制度の利用を通じた活動の拡大と、市の関与の在り方についてフードバンク団体と協議を行っている。

市職員組合が実施するフードドライブに八王子食堂ネットワークが協力できるよう、八王子食堂ネットワークの委託契約の仕様書にフードドライブ事業を追加することを検討している。

＜意見＞ **「元八王子町2丁目の地域猫活動」について**

私は元八王子町２丁目で「地域猫活動」をしていて、市から野良猫の手術に対して助成金が出ているが、それ以上に費用がかかるので、ボランティアの負担を軽減するためにも助成金を上げてほしい。

また、八王子は自然が多く、動物を飼うにはすごく良いまちなので、動物愛護の拠点となるような施設をつくってほしい。

（野下　由希子　様）

≪市長発言（当日）≫

市では、人と猫との共生社会の実現を図るため、平成 23 年度（2011 年度）から飼い主のいない猫に対する不妊去勢手術の助成金制度を設けている。

実際の不妊去勢手術費用と市の支援とのかい離があるということなので、今後、検討させていただきたいと思う。

本市は平成 27 年（2015 年）に中核市に移行し、動物愛護の分野についても条例を制定するなど力を入れて取り組んでいるが、飼い主のいない猫をめぐる問題の多くは行政だけでは解決することが難しく、地域住民やボランティアの方々の力が不可欠である。

今後、行政としても必要な施策の展開をしていきたいと思う。

【その後の対応】

野良猫の避妊去勢手術助成金については、令和 2 年度（2020 年度）から避妊手術について 1,000 円の増額を行う。予算増額は行わず、避妊手術実施可能頭数を減らすことで対応。

動物愛護拠点施設の整備については、施設設置に向けて土地選定等の検討を実施している。

＜意見＞　**「市内のより多くの小学生に防災の大切さを知らせたい」について**

私たちは地域の防災活動や東日本大震災の被災地の応援のため、「ちーむべりぃぐっど！」という団体を結成した。

主に子どもを対象とした防災活動を行っているが、子どもから地域へ、そして大人へ防災の輪が広がっていくようなまちになってほしいと思う。

今後もより多くの小学校で防災教室を行いたいので、私たちの広報活動にご協力いただき、また、市などで実施する防災訓練やイベントに僕たちを使ってほしい。

（飛川　優　様）

≪市長発言（当日）≫

子どもたちが防災についての基礎的・基本的な事項を理解して、安全に関して自分で正しく対応するための思考力、あるいは判断力や行動力を身につけること、災害時に進んで他人や地域社会の安全に役立つことができるような能力や態度を養うことは非常に重要であり、特に、いつ、どのような規模で発生するか予測できない大災害に対しては、子どもたちが瞬時かつ臨機応変に安全な行動がとれる危機回避能力の育成が必要である。

市としても、各市立学校のホームページや市教育委員会公式フェイスブックなどを通じて、皆さんの取り組みを広く市民に周知するなど、活動内容の周知に積極的に協力するので、ぜひこのような活動を続けていただきたいと思う。

【その後の対応】

令和元年（2019 年）9 月 2 日（月）に楢原小学校において、「ちーむべりぃぐっど」が防災教育を行ったので、その様子を学校教育政策課が取材し、市教育委員会公式フェイスブック「はちおうじの教育」等を通じて、市民に周知した。

令和元年度（2019 年度）の総合防災訓練に参加予定であったが、令和元年東日本台風の影響で防災訓練が中止となったため、令和 2 年度（2020 年度）の総合防災訓練に参加できるかどうか確認を行う。

＜意見＞ **「自治会結成･加入率向上に向けた今後の施策」について**

少子高齢化に突入する中で、地域のセーフティーネットとしての自治会は、今後、より重要になると考える。

そのような中、「町会・自治会活性化の推進に関する条例」が施行され、どのような支援を住民組織に行っていくのか伺いたい。

また、自治会をはじめとする住民組織が、住民にとっての居場所になることが、今後の自治会運営を考える上で重要となり、加入率向上につながると思う。

自治会の加入率向上に向けた市の取り組みについても伺いたい。

（田中　翔太　様）

≪市長発言（当日）≫

ご指摘とおり「地域のセーフティーネット」として今後ますます町会・自治会の役割は重要になると認識している。

町会・自治会の活動がより一層活性化し、地域が元気になることを期待して「八王子市町会・自治会の活動活性化の推進に関する条例」を本年４月に制定した。

本条例で重要なことは、市民の皆さんに町会・自治会活動の重要性を再認識していただき、理解を深め、活動への参加・協力・加入といった行動に移していただくきっかけとなることだと思う。そのため、昨年に続き「広報はちおうじ」の町会・自治会特集号で活動紹介なども行い、転入者や外国人、新入生などにチラシや冊子等を配布し、加入促進に関して周知・啓発を進めている。また、町会・自治会連合会と協力して、「町会・自治会加入促進ハンドブック」を作成し、加入促進活動への取り組み事例などを紹介し、活動の目安として活用していただいている。

町会・自治会への支援については、町会・自治会で管理する掲示板の新設、あるいは修繕を助成する制度を創設した。さらに、町会・自治会の皆さんが、コミュニティの醸成、あるいは地域課題の解決に向けた取り組みに注力できるよう、ご意見を聞きながら、加入促進に向けた支援メニューについても、引き続き検討していく。

【その後の対応】

令和２年度（2020 年度）から町会・自治会が加入を促進するために実施する事業に対する補助メニューを新設。

■補助対象：加入促進活動に使用するグッズの作成費・購入費、映像作成費、イベント時の加入促進ブースの設置経費等に対する補助

＜意見＞　**「子どものために集うまちづくり」について**

由井第三小学校では放課後子ども教室を行っているが、社協の協力をいただきながら、シニアサポーターの方々に見守りしてもらっている。

もっと地域の方へ直接呼びかければ人材発掘にもつながると思うが、市としてどのような取り組みがあるか、どういうものを使えばそのような人材にめぐり合えるか教えてほしい。

また、由井市民センターにＣＳＷ（コミュニティソーシャルワーカー）が６人配置されているが、地域にもっと増えれば、もっとサポートしてもらえると思う。地域のつなぎ役という意味では配置の充実をお願いしたい。

（湯浅　直樹　様）

≪市長発言（当日）≫

由井地域には、昨年、地域福祉推進拠点の開設をして、地域が抱える福祉課題の解決に向けた、地域住民との連携した支援に取り組んでいる。

また、地域で活躍の場を求めているシニア世代の方々に「勉強お助けサポーター養成講座の説明会」を開催したところ、当日は定員を超える方のお申し込みをいただき、地域にはいろいろな活動に興味がある方が多いことを感じた。

今後もこのような講座を通して、いろいろな活動に興味がある方を把握し、情報提供することで、地域に元々いる方の力が地域で活かせるような取り組みを行っていきたいと思う。

引き続き、コミュニティソーシャルワーカーは地域の人材発掘や地域の人材をつないでいく役割を果たしていくが、人員については事業の成果を踏まえて検証していきたいと思う。

【その後の対応】

地域福祉推進拠点におけるＣＳＷ（コミュニティソーシャルワーカー）の配置については、社会福祉協議会でこれまでの事業の検証を行った結果、令和２年度（2020 年度）は体制強化のために人員の増員を行うこととした。